



「静、愛と死」

～ 能とオペラの融合による創作舞台～

©Yoshinobu Fukaya

2021年 **8月7日**  15:00開演 (14:15開場) **神奈川県立県民ホール 大ホール**

SS席6,000円 S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 ユース〔25歳以下〕:1,000円(全席) ※全席指定・税込

神奈川フィル先行発売

6月10日(木)10:00～

● 神奈川フィル・チケットサービス 045-226-5107(火・水・木 10:00～13:00)
<https://piagettii.e-get.jp/kanaphil/pt/> (24時間受付)

※神奈川フィル・チケットサービスの営業時間については政府の方針・行動計画に基づき変更する場合がございます。

 TICKET

チケットの購入は
 こちらから
 神奈川フィル 



プレイガイド一斉発売

7月1日(木)10:00～

- チケットかながわ 0570-015-415(10:00～18:00)
- チケットぴあ 0570-02-9999 <https://t.pia.jp/> (Pコード:197-675)
- ローソンチケット <https://l-tike.com> (Lコード:33440)

お問合せ 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 045-226-5045(平日 11:00～16:00)

※未就学児のご入場はご遠慮ください。 ※新型コロナウイルス感染症の状況等により内容が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。 ※営利を目的としたチケットの転売は法律により禁じられています。
 ※ソーシャルディスタンス、フィジカルディスタンスに十分な配慮をしながら客席及び舞台面を使用いたします。詳細につきましては、当ホームページに掲載の「公演実施にあたってのガイドライン」をご覧ください。



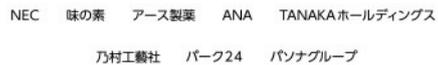
Tokyo 2020 NIPPON Festival Official Partners



Tokyo 2020 NIPPON Festival Supporting Partners



Tokyo 2020 NIPPON Festival Associating Partners



公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

「静、愛と死」～能とオペラの融合による創作舞台～

世は無常 死こそ永遠 炎と燃えた乙女の愛の賛歌

文治元年（1185年）11月、兄頼朝と仲違いをした源義経は、弁慶はじめ家来や側近を連れて西国へ船出するため、摂津国大物の浦（だいまつのうら）に到着する。愛妾静を同行させるつもりが、弁慶に都に返すことを説得され、静は請われるままに別れの宴で男舞を披露する。見事な白拍子の舞の後に、悲哀に満ちた義経初音の鼓の音が残響し「船弁慶」の前場が閉じる。後半のオペラでは、その冬吉野山雪の別れの段となる。奥州逃避行には連れて行かれぬと告げられた静は、義経主従と泣く泣く今生の別れとなったが、その身体には義経の子を身籠っていた。文治2年4月、鎌倉鶴岡八幡宮に召喚された静は、頼朝に請われるままに「賤や賤、賤のおだまきくりかえし・・・」と白拍子を舞う。その後、生まれ落ちた稚児が若君だったが為に、母磯の禪師の必死の訴えも届かず、由比ヶ浜で柴漬けと化した。そして衣川の館で斬首された義経の

櫃も鎌倉に届けられる。母は帰京を嘆願するが、子を無くし義経を失い、すでに死の淵にある静は、ならば愛する人の元へ旅立とうと心を決める。乙女静の愛を貫く半生を、能とオペラの芸能芸術の融合により愉しむ創作舞台。



第1部 能「船弁慶」

「船弁慶」は、「義経記」「平家物語」「吾妻鏡」を素材とした、源義経や弁慶、静御前などが登場するわかりやすい能で、弁慶の語りを中心に物語が展開されていきます。前半は、静御前と義経の別れが描かれ、後半は、平知盛の怨霊が義経一行に襲いかかるといった場面構成であり、ストーリーの展開の面白さから、人気曲に挙げられています。全編の上演には1時間20分～30分掛かりますが、本公演は半能として前場部分を35分ほどのハイライト上演としています。人気が高く、初心者にもわかりやすい場面を編集して公演を行い、子どもから大人まで、全世代に能に親しんでもらえるような内容です。

第2部 オペラ「静と義経」

2部は1993年に鎌倉芸術館のオープニングとして委嘱上演された、三木 稔作曲、なかにし礼 作・台本のオペラ「静と義経」のダイジェスト上演になります。第1幕「吉野山雪の別れ」における静と義経の涙の別れから、第2幕「八幡宮静の舞い」、第3幕「静の死と愛のまぼろし」の全3幕から、今公演の第1部の「船弁慶」との関連性を意識しながら、名場面を集めました。音楽では、三木 稔によって1969年に創作された二十絃箏が、オペラの中でも効果的に使用されており、西洋音楽と邦楽の融合も愉しんでいただけます。また、第1部の能「船弁慶」からのストーリーの繋ぎや、ダイジェスト版のドラマを効果的に運ぶ役として、琵琶奏者による平曲の語りを数か所挟んでいます。

さらに能とオペラの新しいコラボレーション創作として、最高の踊り手として義経が愛した静御前の“白拍子”を、オペラ上演の中に能師の創作能舞として挿入することで、西洋と東洋の芸術の融合を図る稀な舞台となります。



中森貫太



砂川涼子



向野由美子



中井亮一



森口賢二

第1部 能「船弁慶」

鎌倉能舞台

中森貫太(シテ)
福王和幸(ワキ)
鶴澤洋太郎(小鼓)
澤田晃良(太鼓)

富坂 唐(子方)
杉信太郎(能管)
亀井広忠(大鼓)
観世喜正(地頭)

第2部 オペラ「静と義経」

日本オペラ協会

砂川涼子(Sop.静)
中井亮一(Ten.義経)
山田明美(二十絃箏)
藤舎花帆(小鼓)

向野由美子(M.Sop.磯の禪師)
森口賢二(Br.頼朝)
櫻井亜木子(薩摩琵琶)

指揮: 田中祐子

管弦楽: 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

スタッフ

企画・構成・演出: 榎原 徹(神奈川フィルハーモニー管弦楽団)
舞台監督: 小池和彦 照明: 高山晴彦
オペラアドバイザー: 郡 愛子(日本オペラ協会総監督)
字幕投射: 幕内 覚 撮影と収録: 片山直人
音響: 池戸和幸



田中祐子



神奈川フィルハーモニー管弦楽団

公演公式サイト



<https://special2108.kanaphil.or.jp>

神奈川文化プログラム

